

戸谷成雄 彫刻

2023. 2. 25 Sat. — 5. 14. Sun.



《POMPEII...79 Part1》1974年（1987年再制作）
撮影：山本紉 © Shigeo Toya Courtesy of ShugoArts

Ⅰ 展覧会概要

日本の現代美術を代表する彫刻家・戸谷成雄は愛知県立芸術大学で彫刻を専攻したのち、1970年代より本格的な活動を開始しました。彫刻というジャンルが批判や解体にさらされていく同時代の美術潮流のなかで、戸谷は彫刻の起源や古今東西の彫刻表現を探究し、彫刻とは何かを問い続けました。木材の表面をチェーンソーで彫り刻む「森」シリーズの発表を機に80年代から国内外で高く評価され、ヴェネチア・ビエンナーレ（1988年）をはじめ数多くの国際展に参加してきました。90年代より「《境界》から」、「ミニマルバロック」シリーズ、2000年代より「洞穴体」シリーズ、近年には「視線体」シリーズなど優れた作品を手がけ、精力的な活動を続けています。

本展では「森」シリーズなど代表作を含む約40点によって、半世紀にわたる実践を振り返ります。さらに「森」に至るまでの初期の模索にも焦点を当て、初公開となる卒業制作の人体彫刻や資料類をあわせて紹介し、戸谷成雄の創作の原点を検証します。

■ 作家プロフィール

戸谷成雄（とや・しげお）

1947年、長野県上水内郡小川村生まれ。1975年、愛知県立芸術大学大学院彫刻専攻修了。初個展「POMPEII・79」（1974年）以降、同時代の美術潮流のなかで解体されていった「彫刻」というジャンルの再構築を試み、その根源的な成り立ちや構造を問う作品を発表する。1984年より制作をはじめた「森」シリーズによって高い評価を得る。主な個展に、「視線の森」（広島市現代美術館、1995年）、「戸谷成雄 森の襲の行方」（愛知県美術館、2003年）、「戸谷成雄 洞穴の記憶」（ヴァンジ彫刻庭園美術館、2011年）、「戸谷成雄一現れる彫刻」（武蔵野美術大学 美術館・博物館、2016年）など。ヴェネチア・ビエンナーレ（1988年）、光州ビエンナーレ（2000年／アジア賞受賞）をはじめ多くの国際展に参加。2009年、紫綬褒章受章。武蔵野美術大学彫刻科名誉教授。

■ 本展の見どころ

1 作家の活動拠点・埼玉県における初の美術館個展

戸谷成雄は1998年に埼玉県秩父郡にアトリエを構え、本県を拠点に制作を行ってきました。本展は、作家の出身地である長野県と制作拠点の埼玉県の県立美術館による共同開催の展覧会です。公立美術館における大規模な個展は、2003年の個展「戸谷成雄 森の襲の行方」（愛知県美術館）以来、約20年ぶりとなります。



《森の象の窯の死》1989年 東京都現代美術館蔵

撮影：山本糾 © Shigeo Toyama Courtesy of ShugoArts

2 日本を代表する彫刻家・戸谷成雄の代表作を網羅

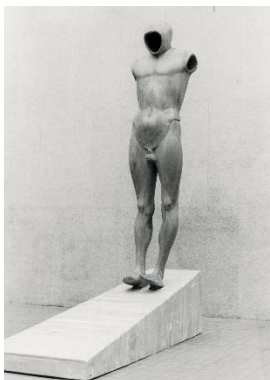
本展では1974年の初個展で発表された《POMPEII・・・79 Part1》の再制作のほか、「森」、「ミニマルバロック」「視線体」などの代表的なシリーズをまとめて紹介しています。学生時代の彫刻作品から近年の最新シリーズまで、約40点が展示されます。



《森IX》2008年 ベルナール・ビュフェ美術館蔵
撮影：山本紉 画像提供：武蔵野美術大学 美術館・図書館

3 埼玉会場だけで見られる初期の貴重な作品群

戸谷成雄は、愛知県立芸術大学で彫刻を専攻しました。埼玉会場では、卒業制作として発表された2点の人体彫刻《男Ⅰ 斜面の男》、《器Ⅲ》をまとめてご覧いただけます。さらに、1983年に戸谷が作品の一部を燃やしたパフォーマンスから派生した彫刻作品「地下の部屋」も、約40年ぶりに公開されます。



《男Ⅰ 斜面の男》1973年



《地下の部屋》1984年 撮影：山本紉



《地下へⅡ》1984年 撮影：山本紉

Ⅰ 展覧会の構成

1 大学在学中から初個展「POMPEII・79」まで

愛知県立芸術大学に進学した戸谷は、マイヨールに師事した彫刻家・山本豊市のもとで西洋近代彫刻の基礎を学びました。埼玉会場では、学生時代に制作された人体彫刻3点と、ドローイングを展示します。初個展で発表された《POMPEII・79 Part1》は、西暦79年にイタリアの古代都市・ポンペイにあるベスビオ山で噴火が起きた際に市民の死体が火山灰のなかで気化し、十数世紀後の調査で、その空洞に注ぎ込まれた石膏によって人型が再び出現したエピソードに着想を得ています。本作は、その後の戸谷の制作を方向付けた重要な作品です。

2 代表作「森」シリーズに至るまでの模索

第2コーナーでは、1970年代末から1980年代前半までの作品変遷をたどります。代表作「森」「地霊」シリーズに至るまでの時期に制作された作品は、素材、形態ともに多岐にわたり、まさに模索期として位置付けることができます。本展では、彫刻そのものをコンセプチュアルに捉えなおそうとした初期作品「《彫る》から」「《構成》から」シリーズを展示します。1983年、海岸沿いで過去作品の一部を燃やしたパフォーマンスによって、戸谷は再び大きな転換点を迎えました。埼玉会場では、パフォーマンスの映像記録とともに、戸谷が再びイメージを向き合うきっかけとなった「地下の部屋」シリーズを紹介します。

3 「ミニマルバロック」、最新シリーズ「視線体」まで

最後のコーナーでは、1990年代から現在までの実践を紹介します。戸谷成雄は2000年頃に「ミニマルバロック」という造語を生み出しました。造形的な要素を極限まで還元する「ミニマリズム」と、複雑で躍動感のある造形を特徴とする「バロック」という対照的な概念を同居させたこのコンセプトには、自己と他者、内部と外部、日本と西欧など異なる概念の相克を捉え、そこから表現を立ち上げようとする戸谷の姿勢が端的に表れています。「ミニマルバロック」シリーズの代表作や最新シリーズ「視線体」などの大型彫刻作品5点が展示されます。

■ 開催情報

展覧会名 戸谷成雄 彫刻

会 期 2023年2月25日（土）～ 5月14日（日）

休 館 日 月曜日（5月1日は開館）

開館時間 10:00 ～ 17:30（展示室への入場は17:00まで）

観 覧 料 一般1200円（960円） 大高生960円（770円）

- ・（ ）内は20名以上の団体料金
- ・中学生以下と障害者手帳をご提示の方（付き添い1名を含む）は無料です。
※対象となる障害者の方及び必要書類については、埼玉県障害者福祉推進課のホームページ（障害者の利用に係る公の施設の使用料及び利用料金の減免に関する条例）でご確認ください。
※企画展・MOMAS コレクション入場時に確認いたしますので、各手帳又は証書をお持ちの方は、ご持参ください。
- ・企画展観覧券（ぐるっとパスを除く）をお持ちの方は、あわせてMOMAS コレクション（1階展示室）もご覧いただけます。

主 催：埼玉県立近代美術館、戸谷成雄展実行委員会

協 力：シュウゴアーツ、ケンジタキギャラリー

広報協力：JR東日本大宮支社、FM NACK5

■ 関連イベント

対談 戸谷成雄（彫刻家）×建島哲（当館館長）

日時 2023年3月12日（日） 午後2時～午後3時30分（開場は午後1時30分）

場所 埼玉県立近代美術館 2階講堂

定員 60名（申込不要、先着順）

料金 無料

担当学芸員の作品解説会

日時 2023年2月26日（日） 午後2時～午後3時（開場は午後1時30分）

場所 埼玉県立近代美術館 2階講堂

定員 60名（申込不要、先着順）

料金 無料

■ スライド・トーク

ご希望のグループにスライドを使って 展覧会の見どころをご案内します（予約制）。
お問い合わせ、ご予約は教育・広報担当（問い合わせ先：048-824-0110）まで。

■ 同時開催

MOMASコレクション（1階展示室）

第3期 2022年12月3日（土）～2023年2月26日（日）

「セレクション」「まるく/まわる」

第4期 2023年3月4日（土）～5月7日（日）

「セレクション」「倉田白羊と森田恒友」「奥原晴湖/菊沢武江」

■ プレスカンファレンス

プレスカンファレンス

2023年2月25日（土）午後4時30分～（受付開始：午後4時）

埼玉県立近代美術館 2階講堂

関係者内覧会

2023年2月25日（土）午後5時15分～（受付開始：午後5時）

埼玉県立近代美術館 2階講堂

上記の日程で、プレスカンファレンスを開催いたします。

参加ご希望の方は、kouhou@aria.ocn.ne.jp（広報担当・真中）までメールでお申し込みください。その際、貴社名、お名前、参加人数、テレビカメラの有無をお知らせください。また、プレスカンファレンスにご参加の方は、引き続き関係者内覧会にもご参加いただけます。

■ 会場案内

埼玉県立近代美術館

〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤 9-30-1

Tel: 048-824-0111 FAX: 048-824-0119 E-mail: p240111@pref.saitama.lg.jp

<https://pref.spec.ed.jp/momas/>

- ・JR京浜東北線北浦和駅西口から徒歩3分（北浦和公園内）。
JR東京駅、新宿駅から北浦和駅までそれぞれ約35分。
- ・当館に専用駐車場はありませんが、提携駐車場「三井のリパーク 埼玉県立近代美術館東」では駐車料金の割引があります（企画展観覧で300円引き、MOMASコレクション観覧で100円引き）。団体バスは事前にご相談ください。
- ・お体の不自由な方のご来館には業務用駐車場を提供いたします。ただし台数に限りがありますので事前にご連絡をお願いします。
- ・ご来館にあたっては、新型コロナウイルス感染症防止対策にご理解とご協力をお願いいたします。状況により休館および会期変更の可能性があります。ご来館前に当館ウェブサイトで最新情報をご確認ください。

■ お問い合わせ

画像のご提供については、当館にお問い合わせください。当館から画像をデータにてご提供いたします。ご請求は kouhou@aria.ocn.ne.jp（広報担当・真中）まで、メールでお願いいたします。



1



2



3



4



5



6



7



8

1 《POMPEII・79 Part1》1974年（1987年再制作） 撮影：山本紉 ©Shigeo Toya Courtesy of ShugoArts

2 《地下の部屋》1984年 撮影：山本紉 ©Shigeo Toya Courtesy of ShugoArts

3 《森の象の窯の死》1989年 東京都現代美術館蔵 撮影：山本紉 ©Shigeo Toya Courtesy of ShugoArts

4 《双影体II》2001年 愛知県美術館蔵 撮影：武藤滋生 ©Shigeo Toya Courtesy of ShugoArts

5 《洞穴体III》2010年 撮影：武藤滋生 ©Shigeo Toya Courtesy of ShugoArts

6 《洞穴体V》2011年 撮影：山本紉 画像提供：武蔵野美術大学 美術館・図書館

7 《森IX》2008年 ベルナル・ピュフェ美術館蔵 撮影：山本紉 画像提供：武蔵野美術大学 美術館・図書館

8 《視線体一連》2020年 撮影：怡土鉄夫 ©Shigeo Toya Courtesy of KENJI TAKI GALLERY

・画像を掲載する場合は、作品のキャプションを明記してください。

・作品画像のトリミング、文字載せはご遠慮ください。